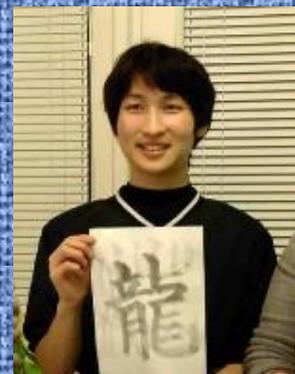


埼玉育ちのグローバル人

書道とユーゴスラヴィアを愛した留学
～大国と小国それぞれで感じた“違い”とは?～

第1回 「スロベニアでの留学奮闘記
～1年間の留学生活の軌跡～」

平成30年度「埼玉発世界行き」奨学生 柳沢 甫



～はじめに～

みなさん、はじめまして！この度9月から3回にわたり、連載させてもらう立教大学異文化コミュニケーション学部3年の柳沢 甫(やなぎさわはじめ)です。2018年9月からスロベニアとイギリスに留学していました。第1回は主にスロベニアでの留学生活や活動について報告したいと思います。

～留学期間～

リュブリャナ大学文学部アジア研究学科日本研究
(University of Ljubljana, Faculty of Arts)
ロンドン大学アジアアフリカ研究学院(SOAS,
University of London)

～埼玉県特別学生親善大使+トビタテ留学 JAPAN
奨学生としての取り組み～

私は、埼玉発世界行きの親善大使のほかに、トビタテ留学 JAPAN 奨学生として、日本文化の一つである書道の魅力を伝えるべく様々な活動をしていました。月に1、2回スロベニアにある日本語学校 Genki Centre で学生(中学生から中高年までと幅広い年齢層)に書道を教えていました。また、もう一つの語学学校や地元の高校でも書道の授業を持ちました。そして、ペンクラブ主催の広島長崎原爆を悼むイベントで書道パフォーマンスをし、さらに年に一度行われるスロベニア最大の日本文化イベントである Dan Japonske にて、日本人+スロベニア人と共に書道パフォーマンス甲子園さな

がらのパフォーマンスをしました！

～リュブリャナ大学について～

リュブリャナ大学は、スロベニア最大の国立大学で、首都のリュブリャナのいたるところにキャンパスがあります。学生数が世界で最も大きい大学の1つで、夕方になると学生たちで盛り上がっています。記念すべきことに今年でリュブリャナ大学は設立100周年を迎えるため、各学部に行くと100年の歩みやイベントが例年に比べて多い感じがしました。授業のレベルも高く、特に言語系などについては様々なものを学ぶことができます。私はリュブリャナ大学文学部アジア研究学科日本研究に在籍していました。アジア研究学科には、日本研究・韓国研究・中国研究があり、多数の生徒は日本研究・韓国研究のダブルメジャーです。

～日本語実習について～

私は、学生として英語で開講されている授業をとる傍ら、先生として主に1・2年生の授業のアシスタントなどをしていました。アシスタントと言いつつも、日々の宿題の採点や、成績処理、そして面接試問の面接官を行うといった、学生と教師の二足のわらじ生活を送っていました。日々仕事を通じて教師の大変さや日本語教育の脆弱点などを見つけていくことができました。宿題を遅れて出す生徒や、教案作成、自分自身の予定との兼ね合いなど、たびたびストレスに感じることもありましたが、しかし、直にリズムをつかみはじめて、

それ以降は苦に感じず、むしろたくさんの方のことを吸収しながら楽しんでいました！



リュブリャナ大学の日本研究生と

～普段の学生生活について～

学校は朝8時から授業が始まり、遅ければ夜10時までである授業もありました。スロベニア人は日本人と変わらず勤勉な民族性なので、遅れずにまじめに来ていました。(日本人のほうが遅れるなどと怠けていました) リュブリャナ大学では、筆記試験100%の授業が多数を占めているため、普段の授業後は各々帰宅するか、外のカフェやバーで飲むかの二択でした。町を横切るように流れるリュブリャニツァ川沿いにはたくさんのおしゃれなカフェが点在していて、とても雰囲気の良い場所でした。

スロベニアは留学生にとってとても環境が整っている国だと強く思います。スロベニア政府奨学金を受給すると、寮代金は無料、月300ユーロの奨学金受給、学生食事クーポン Boni が貰えます。この Boni があれば、リュブリャナのほとんどのレストランで割引が使える、お店によっては無料で特大のピザやラザニアを食べることができるなど、すごくいいシステムです。食べ物もおいしく、産地の国民的飲料としてワインは愛されています。実際に、私の友人の両親がワイン農家でした。彼の家に行ってみると、リュブリャナを抜けたあたりから一面にワイン畑が並んでおり、愛される所が分かりました。またスロベニア第二の都市マリボルには、世界最古のブドウ樹があります。

～スロベニアでのインターン活動 ー現地日本語学校での書道授業ー

前述のとおり、リュブリャナにある日本語学校 Genki Centre にて、昨年10月から書道を教えていました。生徒は日本研究生ではないもののポテンシャルは研究生以上にありました。マンションの一室大の教室で広さの関係もあり、4～5人で行うのに精一杯でしたが、毎授業生徒の熱心さに感激しました。書道の授業では、毎度課題などを出しましたが、ただその課題をこなすだけでなく、プラスアルファの知識までつけて授業に臨んでいる生徒がほとんどでした。授業が終わった今でも、学生からの質問が多く、とてもやりがいのあるものでした。授業後は、生徒たちの持ち寄りで、スロベニア料理をごちそうしてもらいました。



Genki Centre の学生と共に

また、Genki Centre 以外での日本語学校 (Pionirski Dom) でも、書道の授業を行っていました。この日本語学校では日本の中高校にあたる学生に教えていました。基本は日本語で授業を行っていましたが、理論などといった少し発展的な内容を扱うときは、英語で授業を展開しました。Pionirski Dom には日本文化や言語に興味のある生徒が多く、スロベニア人の言語能力の高さを窺うことができました。卒業式には、生徒と共に、卒業作品披露で書道文字披露を行いました。



Pioreneski Domでの書道授業

～スロベニアでの書道パフォーマンス～

スロベニアでは、主に2つの書道パフォーマンスを行いました。一つ目はスロベニア国立現代歴史博物館にて、在スロベニア日本大使館・スロベニア大使館・世界ペンクラブ代表といった素晴らしい来賓の皆様の前で「平和」の文字を揮毫させていただきました。これは広島・長崎展示会が同博物館で行われるにあたり、その初日の歓迎会にて行われました。この揮毫は、同博物館にて展示されています。同じく留学していた西九州大学の学生と現地学生の3人のコラボレーションで、現地学生に箏の演奏をしてもらい、西九州大学の友人には太鼓を演奏してもらい、その演奏をバックにパフォーマンスをしました。「平和」というたった二文字ですが、その中にはたくさんの意味が含まれています。それらを考えながら揮毫させていただきました。とても自分にとって意味のあるパフォーマンスでした。材料がスロベニアにないため、筆の代わりに改造した箏とペンキで行ったため、とても技術が必要でしたが初めての経験を楽しむことができました。



スロベニア国立現代歴史博物館でのパフォーマンス

二つ目は、スロベニア最大かつ中東欧最大級の日本文化イベントである Dan Japonske にて、書道ワークショップとスロベニア人と共に書道パフォーマンスを行いました。人数は計5人で、7m×3mの布に日本語・スロベニア語で書きました。在スロベニア日本大使館の山下一等書記官とも適宜ミーティングをしながら、成功に向けて努力をしました。本当は特大紙でやりたかったのですが、価格と運送の問題により、練習時は街中の新聞を使い、本番は二つの大きな布をつなぎ合わせたものを使用しました。また下敷きもバウハウスで段ボールを買ったものをつなぎ合わせ、その上からビニールを貼るなど、パフォーマーと試行錯誤しながら「手作り」感あふれるものでした。もちろん大成功で終わることができました。その時は、スロベニアや国外からも友人が見に来てくれて、とてもうれしかったです。最後に大使ともお会いし、無事にパフォーマンスとワークショップが成功したことを報告できとてもうれしかったです。それと同時に、これをもって自分の役目とプロジェクトがすべて終了したと思うと悲しくなりました。



Dan Japonskeでのパフォーマンス

～最後に～

今回はスロベニアでの留学報告をさせていただきました。それぞれのイベントの成功にあたり、いろいろな方に支えてもらいました。留学すると、たくさんの友達を作ることができます。そしてこ

のようにプロジェクトなどを共に行うことで、よりその中は深まります。一つ一つのプロジェクトを成功させるには、たくさんの苦勞が求められますが、自分にとってとても意味のあるものになると思います。ぜひこれからとびたつ皆さんも「ただの」留学にするのではなく、「ユニーク」さあふれる留学に挑戦してもらいたいです！